



みらいつうしん

12月号

2022年12月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子



思いを尊重して

寒暖差の激しい師走を迎えております。乾燥で喉を傷めたり、鼻水や高熱を出したりと体調を崩している方がとても多くなっております。また、新型コロナウイルスの感染者も徐々に増え、第8波になったと報道もされています。引き続き園内では、換気、消毒、うがい、手洗いを徹底し感染対策を行って参りますがご家庭でも、体調管理に努めてくださいますようお願いいたします。

さて、最近の子ども達は、好きな場所や遊びを見つけては、楽しみ方を個々に工夫しています。友達との関わりも多くなり、遊びの内容も単純なものから複雑なものに発展させるなど、とことん遊びに熱中している場面が多く見られるようになりました。その反面、子どもは、夢中になりすぎると、周囲の状況をイメージすることや先を見通すことがまだまだ難しく、危険なことを面白がったり、時には、人に迷惑をかけてしまったりすることもあります。楽しい気持ちややってみようという意欲は大切にしつつ、「楽しければ何をしていてもよい」ではなく、集団生活でのルールや決まりごとなどの規範意識の教育は、周りの大人が、その都度丁寧に伝えることが肝要です。見守りと放任は紙一重ですが、今後の子どもの成長にとっては、大きく影響がでけますので、私たち職員も、子どもたちの気持ちに寄り添い、丁寧に対応していきたいと思っております。

ところで、11月の初旬から、幼児クラスは、「ワクワクげきじょう」に向けて、日頃の遊びから身についた知恵や行動を基に、今、子ども達は何に興味関心を持っているのかを保護者の皆様に伝えられるように「発表する」ということも考えながら、活動の意識付けを行っています。

特に、にじ組さんは、「ワクワクげきじょう」で、何を行いたいかを、担任が問いかけると、1つの出しものに、子ども達は、それぞれの思いを出し合うと、10個以上の物語が候補に挙がりました。初めは、友達の意見よりも自分の考えが強く、「絶対これがやりたい、それは嫌！」と、泣き出す子もいて、意見がなかなかまとまらず…。しかし、話し合いを重ねると、「一つのお話を決めて、その中で自分がやりたい場面をする」ということにまとまり、今では、自分の役を完成させるために、夢中になって準備をしています。この様子を見て、一人一人が胸を張って自己表現することは、相手の気持ちを知ることにつながり、相手の思いも理解できるようになります。友達と関わることは、お互いを思いやれる気持ちが芽生えるのだなと改めて、自己表現の大切さを感じました。きっと、ワクワクげきじょうでも、子ども達の意欲が形として表現できることと、今からとても楽しみです。ほし組さんそら組さんも、学年ごと、今までの遊びから学んだ成果を発表できると思っておりますので、保護者の皆様も楽しみにしててください。

今年も残り1ヶ月余りとなりました。子ども達は、普段の園生活でお互いを認め合い、楽しく笑顔で過ごすことで、共に逞しく成長しています。先日も、学園の中高の教頭先生や大学の心理の先生が、こども園に見学に来られ、子ども達の意欲や主体性の豊かさに感動されていたりしました。

私たち保育者も、子ども達のパワーに負けないよう連携をしっかりととり、子ども達の安全を第一に考え、一人一人の教育・保育に努めて参ります。

